

津久戸

令和3年9月30日

10月号 新宿区立津久戸小学校

共有体験から学びへ

副校長 古川 卓也

夏季休業明けより、残暑の厳しさもあり、緩やかな学校生活への移行を行ってきました。9月までに予定していた遠足や社会科見学を延期しましたが、10月4日から始まる後期には、多くの学校行事を計画しています。新型コロナウイルス感染症の状況によって、実施時期や実施方法は調整が必要ですが、学校としては、可能な限り実施できる方法を探ってまいります。

コロナ禍となり、学校行事が中止・延期になることで、学校生活が単調となり、時間の流れも単純化している影響は少なからずあると考えます。様々な捉え方はあったかと存じますが、パラリンピック学校連携観戦では、応援の場が学年等で異なりました。私は校内巡回しながら、映し出された映像の中で、躍動する選手たちに、「がんばれ」と声援を送る姿に、一体感のようなものを感じました。共有体験に縛られないことは自由な価値観をもつことにつながるの考えもありますが、学校行事の体験を共有し、一体感を味わうことは、やはり必要だと考えます。

本校では、学校行事をとおして、学校の教育目標や目指す児童像に迫ることを大切に考えています。具体的には、学校経営方針の中で掲げる「知性と教養」を身に付け、「世界で通用する立ち振る舞いや寛容な心」を養うことです。開催が近付く運動会に向け、教員には学校行事を実施するにあたり、何のために実施するのかという目的を意識し、学校の教育目標の実現に迫れるような目標やめあてを子どもたちと設定し、振り返りを行ってほしいと伝えています。アメリカの哲学者ジョン・デューイの「人間の成長の原理」を要約する言葉（訳文多数あり）に次の一文があります。

『私たちは経験から学ぶのではない。

経験を振り返るときに学ぶのだ』

体験は、子どもたちが成長する中で、何よりも大事であり、そのきっかけ・出合い方を私たち教員は全力を尽くして考えていく役割があります。学校行事を安全・安心に運営する中で、常に目指すゴールを、目指す姿を描く必要もあります。ウィズコロナ下で、子どもたちが豊かな体験を重ね、自らの成長を実感できる学びを展開できるよう努めます。

パラリンピック観戦について

6年学年主任

9月1日(水)、4～6年生の希望する児童がオリンピックスタジアムにパラリンピック観戦に行きました。会場に到着すると、そのダイナミックなスタジアムの作りと大会の雰囲気、「うわー!」、「すごい」と思わず声を出す子もいました。

知的障害のある方の走り幅跳び。車いすの選手のやり投げ。低身長選手による円盤投げ。視聴覚障害のため、伴走者と一緒に走る100m走。障害の種類や程度によってルールや行い方を工夫している様子を見ることができました。どの選手も障害者としてというよりも、アスリートとして競技に取り組んでいる姿が印象的でした。子どもたちは各選手の競技が終わるたびに大きな拍手を送り、選手を称えていました。今回の観戦を通して、スポーツや障害についての理解を深め、さらに関心をもってほしいと思います。

まなびの教室

まなびの教室専門員

人によって得意なことや苦手なことは色々です。いっぱい書いて学ぶのが得意な人もいれば、絵やグラフを見て、ハッと気付くのが得意な人もいます。

まなびの教室では、そんな一人ひとりがもっている力を伸ばすことをめざして、それぞれに合った学び方を学習する手だてを学ぶ教室です。

3階の教育相談室と多目的室、2階のまなびの教室または講堂を活動場所としています。そして学習する内容や場所、人数に応じて、活動日や時間を設定しています。活動は通常週に一回で、45分の活動を教室から離れて行っています。

教室では、みんな楽しく、そして一生懸命に学習に取り組んでいる姿がたくさん見られます。

スクールカウンセラーから

都派遣 / 区派遣

校内に子どもたちの元気な声が響き、にぎやかな毎日が戻ってきました。しかし、こころの中では一人で悩みを抱え込んだり、ストレスをためていたりする子どもたちも見受けられます。私たちスクールカウンセラー(SC)は、子どもたちが悩んでいることなどを聞いて、よい方向に進むサポートができればと思っています。小学生の時に相談するという経験が、今後悩んだときに、誰かに話そうという気持ちになると思うからです。SCに親しんでもらえるように、面談予約のない時は授業観察をしたり休み時間に子どもたちと雑談をしたりしています。保護者の皆様からのご相談もお受けしています。お子様について何か気になることなどがございましたら、今年度も週3日(月・火・木)勤務しておりますので、遠慮なくご連絡ください。

タブレットPC活用の「3つのやくそく」

4月下旬に一人一台のタブレット端末を配付して、半年が過ぎます。各学級で様々な活用が図られ、指導事例も増えてきました。ここまで、次のような取組も行ってきました。

○チャットできる機能に関する利用状況の把握

教員からも状況を確認できるため、利用時には確認することを教員間で共通理解を図りました。

○フィルタリング未登録端末の発見と登録設定

教育委員会の協力を得て、設定状況を2回確認し、未登録になっている端末を無くすよう努めてきました。

タブレットPCを活用する上で、改めて、「3つのやくそく」をご家庭とも共有したいと思います。

【3つの約束】

- ①学校の学習や家庭学習で使います。
- ②健康に気を付けて、時間を守ってタブレットを使います。
- ③人のためになったり、人に喜ばれたりすることに使います。

これまで、プログラミングを制作するアプリ「Scratch」(スクラッチ)に登録されているゲームを授業中に利用してしまう児童がいました。その都度、「①のやくそく」を確認しながら、自分の行動を自己制御・調整する大切さ等を指導しています。学級でその状況について話し合う機会を設けられるよう努めています。また、「③のやくそく」は、危険な行動、他人に迷惑や嫌な気持ちをさせる行動への注意を喚起するものであります。

「10のルール」も設けています。改めて確認いただければ幸いです。

体罰防止宣言の紹介

職員室で、『体罰』に関する事例研修及び自己点検に取り組みました。その成果を整理し、教職員一人一人の振り返りの言葉を紡ぎ、次のようなスローガンを立てました。

『自分の感情を自覚し、冷静に、柔軟に、寛容に、どの子にもあるその子のよさに寄り添っていくこと』を宣言します

悪いことは悪いと、毅然と指導することは当然あります。そのうえで落ち着いて、心に言葉を届けていきます。

.....10月の生活目標

『人の気持ちを大切にしよう』

- ・気持ちのよいあいさつをしよう。
- ・外で元気に遊ぼう。
- ・友達どうし助け合おう。
- ・言葉づかいをきちんとしよう。

「いじめ」につながるふざけっこ等のやりすぎ、相手が嫌がることをしつこく行うこと、相手が嫌がっていても、人権意識を欠く言動がないようになり返し指導しています。また、同じ言動に対して「楽しい」と感じる人もいれば、「つらい」と感じる人もいること等について、児童と話し合いながら誰もが安心して生活できる学校を目指しています。
(生活指導部)



【お知らせ】

- 後期より、後期時程・時間割が始まります。
- 避難訓練は、予告なしで10月中旬に1回実施します。
- 10月8日(金)聖火トーチリレーキャラバン
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーで使用したトーチと一緒に記念撮影を行います。各学年集合写真撮影。(6年生のみ個人撮影あり)
- 11月1日(月)は、学校公開(30日)の振替休業日となります。



【お願い】

- 同居するきょうだい又は親族に風邪症状がみられた場合、PCR検査を受ける前であってもお子様の登校は控えてくださるようご協力願います。
- 新型コロナウイルス感染症の影響等により、お子様のごことで不安等がありましたら、担任又は管理職にご相談ください。